

施工手順書⑫-1

ノイズレスシステムドア CALM（カーム）

片開き戸

施工手順書一覧

共通

※シリーズ専用以外の共通編の施工手順書は工事内容別で下記の①、②、③に分かれています。
※本書の準耐火仕様とは、ご注文の際に当社の「準耐火仕様」を選択した場合に限ります。
※マルコシリーズの2・3枚引違い戸(上吊)、2枚引込み戸(上吊・連動)は共通編をご覧ください。

①木工事

①-1. ステルス枠・標準仕様 / ①-2. ステルス枠・準耐火仕様
①-3. インセット枠仕様

②クロス・塗り壁工事 (ステルス枠・インセット枠共通)

③扉・金物の取付 (ステルス枠・インセット枠共通)

③-1. 開き戸
③-2. 片引き戸(上吊)、ポケット戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)
③-3. 2・3枚引込み戸(上吊・連動)、3枚引違い戸(上吊・連動/非連動)
③-4. 片引き戸(床付レール)

シリーズ専用

※シリーズ専用の施工手順書(④~⑩)は木工事、クロス・塗り工事、扉・金物の取付が一式含まれます。

④クローゼット

④-1. 折れ戸 ④-2. 物入片開き戸、両開き戸、連続開き戸
④-3. スライド片開き戸

⑤オートマチックドア

⑤-1. 片引き戸(上吊) ⑤-2. 片開き戸

⑥ヴェトロ・ミラノ

⑥-1. アウトセット片引き戸(上吊) ⑥-2. 開き戸

⑦カエサル

⑦-1. スイング戸、両スイング戸、サイドガラスユニット
⑦-2. アウトセット片引き戸(上吊)

⑧マルコ

⑧-1. 3枚引込み戸(上吊・非連動) ⑧-2. 2枚引分け戸、4枚引違い戸(上吊)

⑨フィット

⑨-1. スイング戸 ⑨-2. 片引き戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)、引分け戸

⑩ファイブクイーンズ

⑩-1. スイング戸

⑪ソリスト

⑪-1. ローリング戸

⑫カーム

⑫-1. 片開き戸

□ ノイズレスシステムドア・カーム 片開き戸

forステルス枠

施工手順書2021/9作成

2023/8更新

■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

■ 建具

■ 建具金物箱

セット毎にビニール梱包

■ 下地枠

部材	数量	備考
縦枠下地	2本	
上枠下地	1本	
開口定規	1本	下地枠内(広)寸法用

■ 下地枠金物箱

セット毎にビニール梱包

建具金物箱の内容	
隠し丁番セット	グレモン錠ハンドルセット
タイト材	ボトムタイト当り金物
3m×2本 1m×1本	受金物: 25×40mm ビス: M4×16mm
下地枠金物箱の内容	
グレモン錠専用ストライク	縦枠下地取付用ビス
木ネジ: 3.8×25mm	コーススレッド半ねじL=75×28本
施工手順書	

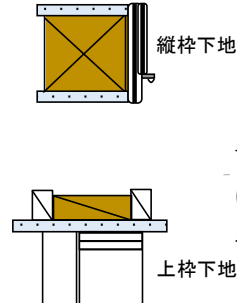
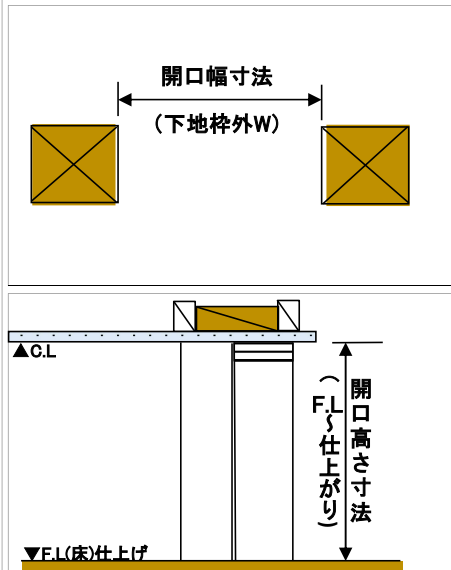
□ ノイズレスシステムドア・カーム 片開き戸

forステルス枠

施工手順書2024/1作成

1 施工前の確認事項

- ① 下地枠を取り付ける前に、開口部の幅・高さ寸法を邸別の納まり図と照らし合わせ確認してください。

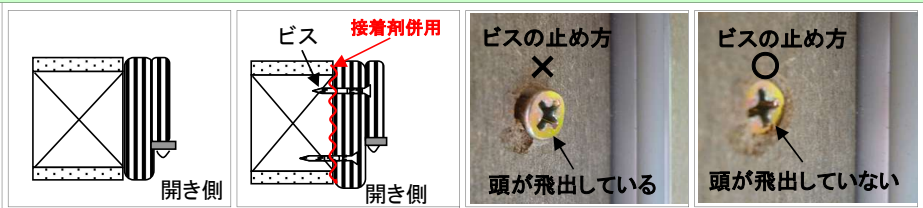


【注意】
下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れてください。

注意
※開口部(柱・まぐさ等)の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で十分に確認してください。
※縦枠下地は床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意してください。

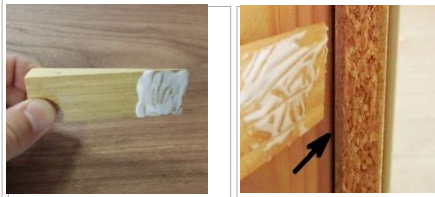
2 縦枠下地の取付

- ① 縦枠下地の位置は壁厚の真ん中に置き、柱にあててレーザー等で立ちを見ながら、同梱のコーススレッドビスL=75で固定してください。



断面の厚み 薄い方が開き側
同梱のビスと 接着剤で枠を固定
ビスは枠より飛び出さないように固定、及び調整を行ってください。

- ② 縦枠下地と柱の間にクリアランスがある場合は、クサビ、又はパッキン（現場手配品）の表裏に接着剤を塗布して差込み、縦枠下地が動かないようガッチリ固定してください。



【注意】
クロスヨレの原因となりますので縦枠下地と建築側の木下地の固定は必ず接着剤併用でガッチリ固めて下さい。

クサビ又はパッキンに接着剤を塗布し縦枠下地と柱をガッチリ固定（クロス・塗り壁のヒビ割れ防止策）
※準耐火仕様のように縦枠下地と柱の間にクリアランスがない場合は、クサビ、又はパッキンは無しで接着固定してください。

注意
※躯体がスタッドの場合は、縦枠下地とスタッドの間に必ず木材（15mm厚以上）を入れてください。

□ ノイズレスシステムドア・カーム 片開き戸

forステルス枠

施工手順書2024/1作成

3 上枠下地の取付

① 上枠下地のアルミ見切り材が縦枠下地のアルミ調見切り材の面と合う位置で上枠下地をビスL=60以上(現場手配)と接着剤併用で固定してください。

×
頭が飛出している

○
ビスの止め方
頭が飛出していない

ビスは枠より飛び出さないように固定、及び調整を行ってください。

【注意】
音漏れの原因となりますので上枠下地と天井の固定は隙間が出ないように接着剤併用で取り付けて下さい。

注意

4 巾木取付

① 巾木を接着剤にて、縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取付けてください。(接着剤は酢ビ系をお奨めします)

接着剤全面塗布

下地の巾木欠き込み部分 (7×30)

下地の欠き込み部分にはめ込む様に取付け

ボトムタイト当たり金物加工部分
巾木欠き込み部分

扉側の巾木の切欠き加工の上にボトムタイト当たり金物用の座掘加工(深さ2×25×40mm)があります。

注意

※ご指定が無い限り、シンプル巾木用の欠き込み加工 (7×30mm) がされています。
※巾木の上にボトムタイト当たり金物が取付きますので、高さ30mmを超える巾木はご使用できません。

□ノイズレスシステムドア・カーム 片開き戸

forステルス枠

施工手順書2024/1作成

5 クロス施工 縦枠【袖壁納まりの場合】

① 縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。

石膏ボード
縦枠
パテ
メッシュテープ

枠小口・石膏ボード接合部にメッシュテープ・パテ処理

ジョイント部をまたいでメッシュテープを貼る
ビス穴、メッシュテープ部、縦枠の木口面全体にパテを塗る(下塗り、上塗り)

<パテ塗り厚の目安>

下地パテ
上塗りパテ
下地パテ
上塗りパテ

下地パテを塗布した時点でメッシュテープの繊維が隠れ、上塗りパテで完全に隠れる状態が適量です。
メッシュテープの繊維が浮き出る状態はパテの量が不足しています。

② 下地処理が完了した後でクロスを貼ってください。金物加工部もクロス巻き込んで貼って下さい。

枠に巻き込む際、クロスは上下左右余裕をもったサイズでまっすぐ貼る
枠に巻き込む際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼るとクロスよれの原因となります

※メッシュテープ貼り→パテ下塗り→パテ上塗りを推奨します。
※縦枠の木口面全体にパテを塗ってください。
※隠し丁番の為、塗り壁仕様はできません。

注意

5' クロス施工 縦枠【入り隅壁納まりの場合】

① 枠の入隅部は貼りづらく、クロス貼る際にクロス面積が大きい壁面のクロスに引っ張られやすくなりますので注意が必要です。縦枠の木口面にパテ等を塗り、クロスは上下左右余裕を持ったサイズで木口にヘラ等で壁面のクロスに引っ張られないようにまっすぐ貼って下さい。

石膏ボード
縦枠
パテ
石膏ボード
縦枠

【標準仕様】
【準耐火仕様】

ビス穴、縦枠の木口面全体にパテを塗る
(木口面の見附寸法が小さく、パテが塗りにくい箇所はコークボンドを塗る)
※但し、クロス厚が薄い場合はコークボンドで不陸が出ないようにご注意ください

壁面
ヘラ
壁面

枠の入隅部に貼る際、クロスは上下左右余裕をもったサイズで木口にヘラ等をあてながら壁面のクロスに引っ張られないようにまっすぐ貼る
枠の入隅部に貼る際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼ると壁面のクロスに引っ張られ、クロスよれの原因となります

※メッシュテープ貼り→パテ下塗り→パテ上塗りを推奨します。
※縦枠の木口面全体にパテを塗ってください。
※隠し丁番の為、塗り壁仕様はございません。

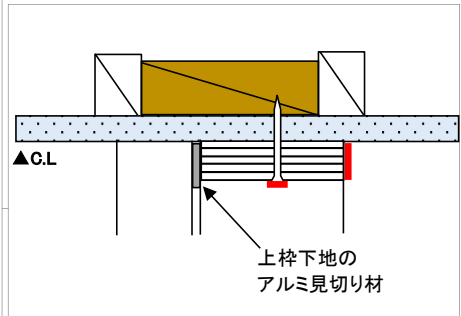
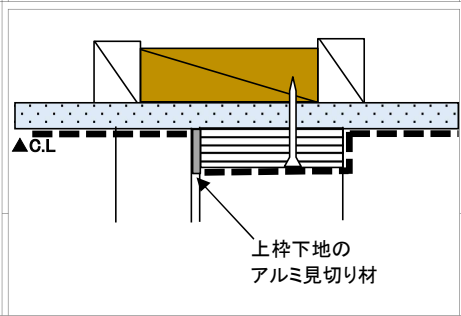
注意

□ ノイズレスシステムドア・カーム 片開き戸

for ステルス枠

施工手順書2024/1作成

6 クロス施工 上枠

<p>① ビス穴、上枠の木口面全体にパテを塗り、下地処理を行ってください。</p>		<p>— : パテ</p>	
<p>下地処理が完了した後でクロスを貼ってください。</p>		<p>- - - : クロス仕上げ</p>	
<p>注意 ※メッシュテープ貼り→パテ下塗り→パテ上塗りを推奨します。 ※上枠の木口面全体にパテを塗ってください。 ※隠し丁番の為、塗り壁仕様はございません。</p>			

7 グレモン錠専用ラッチ受けの取付

<p>① クロスが乾いてから加工部にカッターで切り込みを入れ、ラッチ受けを差し込みます。</p>				
	<p>金物加工部分をカッターで切り込みを入れる</p>	<p>クロスを巻き込みながら、受け箱を加工穴に入れる</p>	<p>最後に表面のプレートと受け箱を付属のねじで共締め</p>	
<p>注意 ※カッターで切り込みを入れたクロスが加工穴に巻き込んだ上から金物を取付けるとキレイに仕上がります。</p>				

□ ノイズレスシステムドア・カーム 片開き戸

for ステルス枠

施工手順書2024/1作成

8 隠し丁番の取り付け

<p>① 枠側に枠側取付ベースを取付けます。 その際、枠側の上段にはねじ付の枠側取付ベースを取付けてください。 枠側への下穴はφ2.5深さ15～20mmであけてください。</p>			
	<p>枠側取付ベース</p>	<p>ねじ付は枠上側にい取付</p>	<p>同梱のビスで固定</p>
<p>② 扉側に上用丁番と下用丁番を取付けます。 裏面のシール表示通り、上用と下用を間違えないようにしてください。 扉側への下穴はφ2.5～φ3.0深さ約25mmであけてください。</p>			
	<p>赤線で囲んでいる部分を扉に取付</p>	<p>下穴をあけて固定</p>	<p>丁番は開く側に偏心して取付きます</p>
<p>注意</p>			

9 扉の吊り込み

<p>① 建具を吊り込みます。 扉側の上用丁番を90°に開くようにセットし、吊り込みねじに引っ掛けてください。</p>		<p>【注意】 扉が開かなくなる可能性があります。 ローラーは“入る”側に調整した後に扉を吊り込んでください。</p>	
	<p>上用丁番を枠側取付ベースのねじに引っ掛ける</p>		
<p>② 下用丁番の固定ねじを締めてください。次に、上用丁番の固定ねじを締めてください。</p>			
	<p>先に下用丁番を固定し、次に上用丁番を固定</p>		
<p>注意</p>			

□ ノイズレスシステムドア・カーム 片開き戸

for ステルス枠

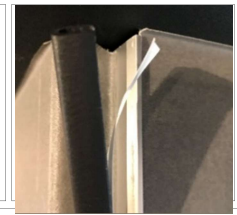
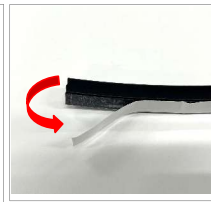
施工手順書2024/1作成

10 タイト材の取付準備と貼付け時の注意事項

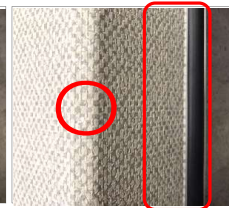
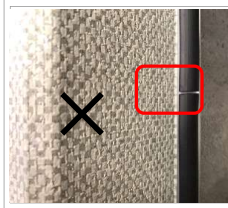
- ① タイト材の剥がれ防止のため、
タイト材を取付ける前に**必ずお
読みください。**



タイト材を取付ける前に縦
枠と上枠の見切り材(シル
バー色)に付着したクロス
糊や汚れを完全に除去して
ください。



タイト材の両面テープの剥離紙は一気に剥がさず、少
ずつ剥がしながら見切り材に貼り付けてください。



※タイト材はゴム製のため、引っ張りながら取付け
ると縮もうとする力で両面
テープが剥がれますので注
意が必要です。

タイト材は分割せず、1本通して貼ってください。

タイト材は手で引っ張らないよう貼ってください。

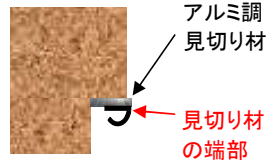
**注
意**

※遮音性を確保するためタイト材は正しく取付けてください。

11 縦枠用タイト材の取付

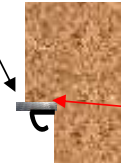
- ① 戸先側、吊元側それぞれ右図の
向き・位置にタイト材を貼り付
けてください。

【戸先側】



見切り材の端部に合わせて貼る

アルミ調
見切り



【吊元側】

縦枠に
ドン突き

縦枠に押し当てて貼る

- ② 上部から貼って下部でカッター
やハサミで長さカットしてくだ
さい。

※下部でカットする際、床面よ
り2cmほど長くカットしてから
微調整すると床面まで貼るこ
とができます。



上部は天井仕上げ面まで貼る



下部は床仕上げ面まで貼る

**注
意**

※遮音性を確保するためタイト材は正しく取付けてください。

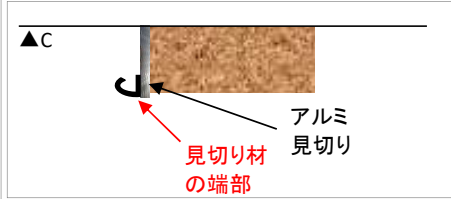
□ ノイズレスシステムドア・カーム 片開き戸

for ステルス枠

施工手順書2024/1作成

12 上枠用タイト材の取付

- ① 右図の向き・位置にタイト材を貼り付けてください。



見切り材の端部に合わせて貼る



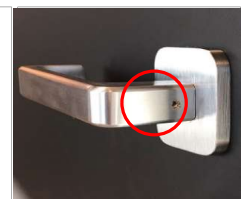
戸先側のタイト材から吊元側のタイト材まで隙間が無いように貼る

注意

※遮音性を確保するためタイト材は正しく取付けてください。

13 グレモン錠ハンドルの取付

- ① ハンドルに取付説明書が同梱されていますので合わせてご確認ください。



樹脂パーツを扉に当て、樹脂パーツ(上左写真)側から付属の固定ねじを差し込み、反対側の台座と固定

樹脂パーツの上に台座をかぶせて取付

両側からハンドルを差し込み付属の六角レンチ(M2.5)でしっかり固定



ハンドルを水平にし手前に引くと扉が開きます。

※ハンドルが水平の場合では扉は完全に閉まらず、少し浮いた状態になります。
11ページ参照



ハンドルを90度下げることで扉が戸当たり枠(タイト材)に引き寄せられて扉が完全に閉まります。

注意

※ハンドルを90度下げても扉と戸当たり枠(タイト材)の引き寄せが足りない場合は、隠し丁番・ラッチ受けの調整を行ってください。

□ ノイズレスシステムドア・カーム 片開き戸

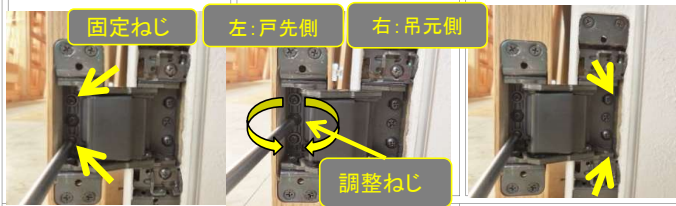
forステンレス枠

施工手順書2024/1作成

14 隠し丁番の調整

① 【前後調整・枠側】

- ①前後固定ねじ2本を調整が必要な分、緩めてください。
- ②前後調整ねじを右に回すと前に、左に回すと後ろに移動します。
- ③調整後に固定ねじを締めます。



固定ねじ2本を緩める

調整ねじは固定ねじの間

固定ねじ2本を締める

【調整範囲】
前 方向+2.0mm
後 方向-2.0mm

扉とタイト材に隙間が生じ
ないように調整

【左右調整・扉側】

- ①左右固定ねじ2本を緩めます。
- ②左右調整ねじを右に回すと吊元側に、左に回すと戸先側に移動します。
- ③調整後に固定ねじを2本締めます。



固定ねじ2本を緩める

調整ねじは固定ねじの間

固定ねじ2本を締める

調整範囲】
戸先方向+2.5mm
吊元方向-1.5mm

吊元側の扉と枠の隙間が
4mmになるよう調整

【上下調整・枠側】

- ①上用丁番、下用丁番の上下固定ねじを半回転緩めます。
- ②上用丁番の吊り込みねじを右に回すと上方向へ、左に回すと下方向へ移動します。
- ③調整後、上用丁番、下用丁番の固定ねじを締めます。



上下共、固定ねじを緩める

上用丁番の
吊り込みねじで調整

上下共、固定ねじを締める

【調整範囲】
上 方向+2.0mm
下 方向-2.0mm

注意

※遮音性能を確保するため、タイト材と扉に隙間が生じないように調整してください。

15 隠し丁番カバーの取付

枠側カバーと扉側カバーを取り付けてください



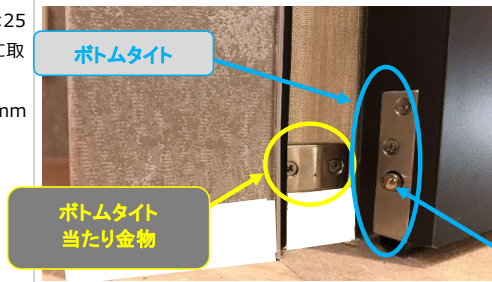
大きい方が枠側カバー、小さい方が扉側カバー

取付完了後

注意

16 ボトムタイト当たり金物の取付とボトムタイトの調整方法

- ① ボトムタイト当たり金物(2t×25×40mm)を付属のねじで枠に取付けてください。
※吊元側の縦枠下部に深さ2mmの座掘り加工があります。



ボトムタイト当たり金物を枠に取付けないとボトムタイトの金属製の調整ボルトが枠に直接当たり、クロスと枠を傷つけますので必ず取付けてください。

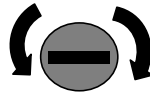
調整ボルト

- ② 扉が閉まる際、ボトムタイトが床に接するように扉の吊元側にある金属製の調整ボルトで出寸法を扉を開いて調整します。
※ボトムタイトは扉に組み込まれて納品されます。

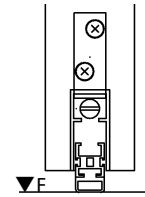


【調整ボルト】

入る 出る



- ① マイナスドライバーを使い、6mm程度まで調整ボルトが出る



② ボトムタイトが床仕上げ面に接する位置になるように、扉を開けてトリガーを回し、扉を閉めて確認することを何度か繰り返して調

注意

※遮音性を確保するためボトムタイト材を調整してください。

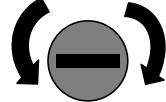
17 グレモン錠と専用ラッチ受けの調整方法

- ① 扉を閉めハンドルを90度下げなくても扉が開いてこないようにするためにローラーの出寸法を調整します。

※但し、ハンドルを90度下げない(ハンドルが水平)の場合では扉は完全に閉まらず、少し浮いた状態になります。



入る 出る



ハンドルが水平の場合、扉は完全に閉まらず枠より少し浮いた状態となります。

- ② ハンドルを下げた際に扉と枠の引き寄せ効果が足りない場合は、専用ラッチ受けの前後調整機能を使い戸当たり側へ調整してください。
※引き寄せ効果が足りないと扉と枠に取付けたタイト材が密着せず隙間となり遮音性が低くなります。



専用ラッチ受けの前後調整は、まず表面のプレートのねじを外します。



次に中の受け箱を前後にスライド(調整範囲：前後±2mm)させて調整後、表面のプレートとねじで共締めします。

注意

※ラッチ受けの調整だけでは引き寄せ効果が足りない場合は、隠し丁番で建付け調整を再度行ってください。

□ ノイズレスシステムドア・カーム 片開き戸

forステルス枠

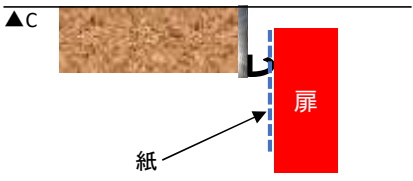
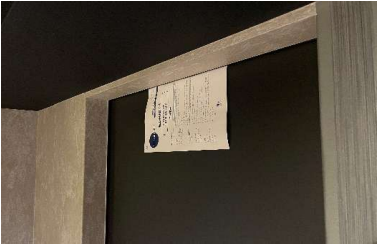
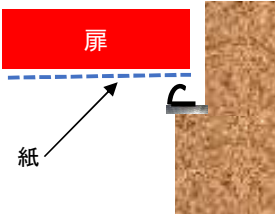

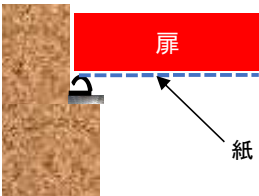
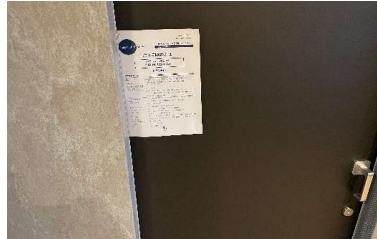
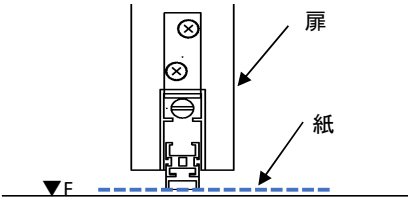
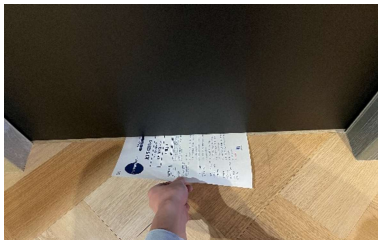
施工手順書2024/1作成

18 【施工後の確認】 タイト材の隙間チェック

ドアとタイト材①～③、床とボトムタイト④へ順番に紙を1枚挟み、ドアを閉めてグレモン錠を下げた状態で紙が簡単に抜けなければボトムタイト材は適切な位置に調整できています。

※縦枠のタイト材は上中下の3箇所紙を挟んで確認してください。

※紙が抜ける場合は建付け調整を再度行ってください。

<p>① 上枠用タイト材</p>		 <p>写真のように紙が落ちなければ適正位置</p>
<p>② 縦枠用タイト材 【戸先側】</p>		 <p>写真のように紙が落ちなければ適正位置</p>
<p>③ 縦枠用タイト材 【吊元側】</p>		 <p>写真のように紙が落ちなければ適正位置</p>
<p>④ ボトムタイト</p>		 <p>指で紙を引っ張って抜けなければ適正位置</p>